

「権利と義務」

～そうだ父の元へ帰ろう2～

ルカ15:22～32

私たちはいつも色々な奉仕をしています。私たちは神様に強いられて何かをしているのでしょうか。そうではありません。神様が私たちに与えてくださった恵みはあまりにも素晴らしいのでそれを伝えずにはられないのです。しかし、ここに出てくる放蕩息子の兄は違いました。30節「それなのに、遊女におぼれてあなたの身代をくいつぶして帰ってきたこのあなたの息子のためには・・・」と書かれています。兄弟なのに、あなたの息子と言い、自分の兄弟ではないのです。父親が父親ではないのです。私たちは神の家族です。そして、あなたが、愛せないと思っているその人も同じ神の家族であり、同じ神様がお父さんなのです。その、お父さんは31節で「子よ。おまえはいつも私といっしょにいる。私のものは、全部おまえのものだ。」と言います。私たちといつも一緒にいてすべてを持っている神様が私たちを愛してくれている。このことをおぼえているのでしょうか。神様がしようとしていることは、ありのままの姿のあなたと、ありのままの神様の姿が一つになることです。しかし、私たちはそのことを忘れてあなたが思うイメージで神様をみてしまいます。厳しい父親に育てられた人は、厳しい神様。父親に裏切られた人は、神様も裏切るとしてしまいます。だから、イエス・キリストは十字架に架かって、あなたの過去の痛みと悲しみを背負って拭い去り、私たちの人生をもう一度新しくして下さったのです。あなたが、今、神様との関係を回復しないとどんなに素晴らしい奉仕をしてもどれだけ働いても全く無意味になってしまいます。この、放蕩息子のお兄さんにとって神様への奉仕は奴隷としての義務だったのです。だから、彼は子山羊一匹もくださらない。と権利がでてきました。私たちも権利を主張するけれど、義務を果たさないようになってないでしょうか。

■ 権利とは自由である。エクスーシア Iコリント8、9章

パウロはローマで捕らえられたとき、ローマ人である権利を訴えませんでした。このように自分の権利を捨てた人はイエス・キリストです。神はご自分のあり方を捨てることができないと考えず、ご自分を無にし、仕える姿をとった。と書かれています。この権利という言葉は自由という言葉とも訳されています。Iコリント8章9節、9章4節には権利という言葉がでてきます。そして、9章1節には自由という言葉がでてきます。口語訳聖書では8章9節の権利は自由と書かれています。9章1節の「自由がない」の自由は義務がないという意味です。義務がないという言葉と権利という言葉を使ってその権利というのはあなたの自由であると伝えていきます。神様は創造の時にアダムとエバに自由を与えました。我々に似せて人を造ろう。産めよ、増えよ、地を満たせ。と言われた神様の権利。人間に与えられた自由。これはどういう意味があるのでしょうか。それは、その人が神様に任せられた自分の人生を生きるために与えられた権利です。その権利は神様の物が自分のもの

のであるという素晴らしいものです。自由とは自らが神様の道を生きるために自らの責任をもって生きることです。ですから、自らに対して権利があるのです。自らの権利は周りの人に振りかざした時点で、自らが神になるのです。しかし神の権利は自らが人を愛するがゆえに自らを捨てる権利を行使したのです。自由に決断できるのです。しかし、なぜ、私たちクリスチャンは妻、夫、子供、親に対して、自分の権利をいまだに強く求めています。そんな関係で、神様の自由の愛を表すことができるのでしょうか。

■ 義務とは愛である。アガペー

そこでイエス・キリストは愛という最大のプレゼントをくださいました。あなたがあなた自身を保って生きられるようにあなたに自由を与えて下さいました。自らの決断で自らの人生を愛する人生です。そしてあなたの愛で、隣の人にその人の人生が造り変えられる人生です。私たちは物質や、行動で愛を表そうとしますが、イエス様は愛という本当の恵です。私がこんなにやってるのだからあなたもこうしなさい。それは本当の愛ではありません。働かれます。献身があるところには必ず「犠牲」があります。私たちの健康も、時間も、才能も、影響力も、若さも神様に捧げましょう。私たちは短い人生を生きるものです。その中で聖霊様がしっかり握って導いてくださいます。すると私たちは神様との垂直的な関係をもつものとして世の中に影響を与えることができるのです。神様は私たちのことを一人ひとりの賜物によって用いてくださいます。だから私たちは人々を批判のする前に理解する必要があります。よく理解すると誤解がなくなります。

■ 神様からの自由の権利を得た私たちは愛によって権利を捧げ、義務を流す

私たちはいつも権利という言葉を取り違えて自分の在り方を保つために相手に求めてしまいます。しかしそれは弟よりも悪い大変な病を引き起こします。弟は”そうだ帰ろう”と言えましたが、兄は父がなだめたにも関わらず部屋に入ろうとしませんでした。イエス様が今ここにおられたら、私たちになんていわれるのでしょうか。あなたはなぜ、仕えるのか、教会に来るのか、災害支援をするのか、日本のために韓国からくるのか。権利は自分の心をみきわめるために用います。しかし、相手をお愛そうとするとき困難があります。イエス様は自分が愛した人に裏切られ、自分が癒した人に訴えられ、その人のために来たのに、十字架に着けると叫ばれました。イエス様の事を思えば私たちが受ける屈辱は小さいものです。イエス様が愛したように愛し合いなさい。愛されるではなく愛することは権利ではなく義務です。愛するとは相手の行動によらないのです。その義務が果たされる時神様はそこに奇跡をもたらします。

(要約者:澤口明子)

(2018年8月5日)